

報告書

京大生による塩飽部隊プロジェクト PART2 安養寺竹林伐採

— 平成 29 年度香川県魅力ある地域づくり団体育成支援事業 —

京 都大学の学生サークル 農業交流ネットワーク
(農交ネット)と、香川県の四国夢中人が
共同で進めている、塩飽諸島活性プロジェクト。
第 2 回は塩飽諸島北部・手島にある安養寺周辺の
竹林伐採に取り組みました —

農業交流ネットワーク

鎌倉時代に建立された安養寺は、立派な石垣に囲まれた真言宗のお寺として手島の人々の信仰の拠点でした。しかし、現在では裏山から竹藪が年々侵食し、このまま放置すれば境内への損害も生じてくる恐れがあります。さらに、市内の塩飽諸島5島のうち、手島が最も人口と世帯数の減少割合が高く、高齢化が進んでいます。そのため、自分たちの畑や住居周辺の手入れをするのがやっとだという状況を島民の方からお聞きました。そこで、こういった現状を少しでも打破するために、仲南森林組合のご協力を得て、農交ネットの学生たちが竹林伐採を行う企画をスタートさせました。

実施概要

期 間 2017 年 4 月 29 日～5 月 1 日 (3 日間)

場 所 香川県丸亀市 塩飽諸島 手島
(平成 27 年:19 世帯 27 名、周囲 10km)

宿泊先 手島自然教育センター
(旧手島小中学校)

- 活 動**
1. 安養寺周辺の竹林伐採
約 0.05 ha
 2. 仲南森林組合による竹のチップ化
孟宗竹約 400 本
 3. 香川本鷹苗植え

傾斜を登った先に構える安養寺



参加者 (約 40 名)

京都大学・農業交流ネットワーク

京都大学大学院農学研究科助教／農交ネット創設者	大石 和男 氏
京都大学大学院人間環境学研究科 修士課程 2 回生	尾崎 純 さん
京都大学大学院人間環境学研究科 修士課程 2 回生	馬場 智也 さん
京都大学農学部資源生物科学科 3 回生	池田 茉史 さん
京都大学農学部食料・環境経済学科 3 回生	岩男 望 さん
京都大学文学部 3 回生	平井 良江 さん
京都大学工学部物理工学科 2 回生	鈴木七央也 さん
京都大学農学部食料・環境経済学科 2 回生	中村 亮太 さん

地元関係者

JR四国事業開発部	鎌田 瑞輝 氏
	谷井 俊輝 氏
	谷井 夕貴 氏
JA香川県営農部営農企画課	大倉 貴裕 氏
株式会社久保田麺業代表取締役	久保田剛司 氏
香川県環境森林部みどり整備課森林整備グループ	河野 幸彦 氏
仲南町森林組合	会員4名
正覚院副住職(本島)	三好 祥晃 氏
日本コカ・コーラ株式会社経営戦略室	ナブニート・シング 氏
百十四銀行／香川大学大学院地域マネジメント研究科	大西 紘司 氏
京都大学農学部食料・環境経済学科 2011 年卒	岩澤 素子 氏
四国夢中人代表	尾崎 美恵

手島関係者

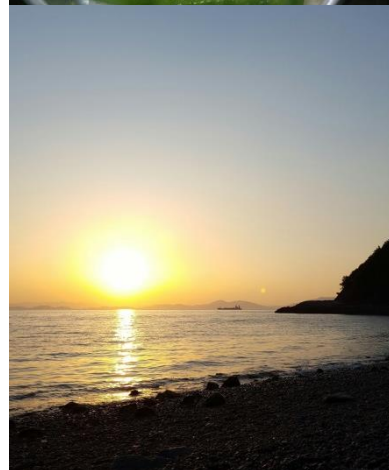
手島島民	10 名
ふるさと手島会(手島出身者)	5 名

ドローン撮影・取材

共同ビデオ制作株式会社
塩田 康広 氏

協賛企業 JA香川県「讚さん広場」 おいで米 60kg／讚岐豚／アスパラ／キャベツなど
 農協食品株式会社 鳥もも肉 20kg／骨付き鳥 30 本
 株式会社久保田麺業 竹清釜かけうどん 120 食／骨付鳥味焼うどん 80 食
 共同ビデオ制作株式会社 ドローン撮影

協力 NPO 法人 石の里広島 竹チッパー4トン車／組員 5 名
 仲南森林組合 のこぎり 24 本／ヘルメット 20 ケ
 香川県環境森林部





おおし かずお
大石 和男 氏

京都大学大学院農学研究科
助教
農交ネット創設者
広島県出身

竹を加工して作ったチップ

京大・農業交流ネットワーク

では、これまで20年あまりにわたって、農作業などの手伝いを通じて農業交流活動を行ってきた。最近の学生は、社会貢献に対する意識も高く、じぶんたちの活動が社会に与えるインパクトについての関心も強い。その意味で今回の手島での景観整備(竹林伐採)は、作業を通じて、島社会への貢献を意識できるよい機会になったと思う。

すずき なおや
鈴木 七央也 さん

京都大学工学部物理工学科2回生
栃木県出身

農業交流ネットワークの一員として、今までさまざまな場所を訪れて農作業をしてきましたが、それらの中でも今回の手島訪問は非常に印象に残るものとなりました。初めて手島に上陸したとき、鳥の鳴き声しか聞こえないほどの島全体の静かさやのどかさに驚きました。そして訪問初日の午後からさっそく始まった、今回の手島訪問の最大の目的たる「竹の伐採」。普段の農作業とは違うこの経験もまた大きな収穫でした。ですが何よりも、竹伐採の際にたくさんのアドバイスをしてくださった吉田さんをはじめ、島に住んでいる



島民と力を合わせ巨大な竹を切り倒す

方々と交流できたことが今回の一番の思い出です。3日間という短い期間でしたが、本当にお世話になりました。

いけだ まふみ
池田 茉史 さん

京都大学農学部資源生物科学科3回生
奈良県出身

今回手島に対する思い入れがぐっと大きくなった訪問でした。以前までの訪問では手島の存在や雰囲気を知っただけで、こんな島があるのか〜という感じでした。けれど、今回島の方達と一緒に竹林を伐採し、お話をすることで島の生活や島の人たちの人となりに触れました。それに伴って、ここで私たちは何ができるのだろうか?もっと島の人たちと色々なことがしたい!と強く思うようになりました。竹林伐採やとれたてのお魚の調理など普段の生活では絶対できない機会もいただき、それも新鮮でワクワクドキドキ、トキメキいっぱいの体験が楽しかったです。これからも島の方達やこの訪問で知りあった方々と手島で色々なことができたらと考えています。



獲れたての魚を学生みずから捌く

ひらい よしえ
平井 良江 さん

京都大学文学部3回生
大分県出身

其処彼処から鳥の囀りが聞こえ、朝の到来を告げる。眼前には広大な海が広がり、海風が肌を擦ってゆく。さわさわと山畑の緑が揺れ、春の花が密やかに彩りを添える。ああ、豊かな島だ。コンビニもスーパーも何もない。ただ、この手島は間違いなく豊かであった。島の外から突然やって来た



あちこちに春の花が咲いていた

私に、何のためらいもなく話しかけてくださる島の方々。あまりに屈託がなく、ちょっとでも島の外に出たら騙されそうな危うささえ感じた。しかしこの屈託のなさが許される環境があることに感動し、安堵した。竹チップを作る中でも、島民の方々の経験からくる知識の豊富さにただ圧倒され、共に作業することに誇らしささえ感じていた。この豊かな手島で生きる人は年々減少している。人を呼び込むこと、新しいプロジェクトを立ち上げること、勿論こうしたことも必要だろう。ただ、この豊かさ、この屈託のなさが許される環境を維持する重要性について深く考えさせられた訪問でした。

なかむら りょうた
中村 亮太 さん

京都大学農学部食料・環境経済学科 2 回生
兵庫県出身

私が手島に行くのはこれが初めてで、正直名前さえ知りませんでした。いざ初上陸して感じたのは昔ながらのそれでいて立派な建物、鳥の声、風の音、自然…全てが壮大で包み込まれました。そしてあたたかい島民の方々との交流。



がっしりとした家々は黒い壁が印象的

丁寧に迎えていただき、楽しみながら作業し手島を満喫することができました。それと同時にこの島の課題に「当事者」として考えさせられました。この雄大でかつあたたかい環境が失われることへの抵抗を再認識する一方、島という特異でユニークな場所を外部から画一的な方法で「発展し復活」させることへの違和感も感じました。楽しみつつ、自分たちがどこまで踏み込んでいけるのか、学びの多い訪問でした。

いわお のぞみ
岩男 望 さん

京都大学農学部
食料・環境経済学科 3 回生
神奈川県出身

今回は私にとって2回目の手島訪問で、竹林伐採と竹のチップ化の作業を通じ、島の方々、参加した方々と交流しました。体を使いつつも、大勢での作業は楽しいもので、島の環境が少しでも良くなっていたら嬉しく思います。期間中、私たちをあたたかく迎え



空き時間には島内を散策

てくださる方々と豊かな自然に普段と違う時間の流れを感じていました。漁に同行させていただいたり、集落の中を歩いたり、お宅にお邪魔させていただいたことで、島の方々の言葉、暮らし、島の歴史に興味があります。このような機会を準備し協力してくださった方々に感謝しています。そして、これからも何らかの形で手島との関わりを持たせていただきたいと思っています。

おざき じゅん
尾崎 純 さん

京都大学大学院
人間環境学研究所修士課程 2 回生
千葉県出身

今回わたしは三度目の手島訪問でした。一度目は島のありのままの自然に魅せられ、気軽な旅行者の気分。二度目



まっすぐ整えられた畝と香川本鷹の苗

嬉しい収穫でした。また、普段のサークル活動は農作業が中心だったので、竹林伐採に加え、早朝五時半からの漁に同行したり、香川本鷹の苗植え作業を手伝ったりと「農林水産業」全般を広く体験できたことも、今回特に印象的でした。

いわさわ もとこ
岩澤 素子 氏

京都大学農学部食料・環境経済学科
2011年卒業

今回は大型連休中だったこともあり、前回に比べて若い世代の方や子どもたちの姿が多くあったことが印象的でした。滞在中には、手島のみなさんからさまざまな野菜や海産物を差し入れていただき、それらをどう調理すればおいしく食べられるかも併せて教えていただきました。どれも本当においしく、とれたて新鮮で、島の豊かさを感じました。こうした豊かな自然環境や食文化・知識は、今回新しく知った



甘くて新鮮な島の恵みいただいた

は島の人たちとの関係が一步深まり、第二の故郷を得た気分。それに続く今回の訪問。ミッションはずばり、「島の暮らしを脅かす竹林を伐採せよ!」。二日間の作業を通して、島の人たちと声を張り上げ汗を流したことで生まれた連帯感や、地元の課題に対して芽生えた当事者意識が、大量の巨大な筍にも勝

手島の魅力のひとつです。私自身が感じた手島の魅力を、今度はもっと多くの人たちに知ってもらうために、どんな形で発信することができるのか、考えていきたいと思います。

おおにし こうじ
大西 紘司 氏

百十四銀行/
香川大学大学院地域マネジメント研究科

京都大学農交ネットのみなさんをはじめ、地元企業の方、森林組合の方、行政の方、それにたまたま連休中に手島に帰省されていた方など、40名を超える、普段出会うことのない人達が一丸となって手島の安養寺の竹林を伐採する、という珍しい経験を共にすることができ、今回の企画を主導されたNPO 四国夢中人の尾崎代表に感謝しております。また、我々を受け入れてくださった手島の皆さまも、大変ありがとうございました。資料によれば丸亀市内の塩飽5島のうち、手島の人口・世帯数はかつてより減少割合が



全員で声をかけあう姿は真剣そのもの

最も高く、高齢化率も最も高いということで、島に暮らす皆さんも自分達の畑の世話が中心で、安養寺の整備までは手が回りにくくなっているようであり、そのようなお悩みに対し少しでもお手伝いできたとしたら、嬉しく思っております。竹は硬くて枝も多く、伐採作業は大変でしたが、何とも言えない一体感を味わうことができ、その感覚について尾崎代表が「オーケストラのよう」と後でおっしゃっていて、まさに言い得て妙な感覚でした。それぞれはほんの少しの力でも、それを集めていけば、大きいことができるのだということを、身をもって知ることができた非常に充実した3日間でした。

みよし ひろあき
三好 祥晃 氏

正覚院副住職（本島）

多方面の方々の協力によって、大成功に終わったのでは
と思っております。今回、強く印象に残りましたのは、私を
含めて広島、本島の住民が同じ塩飽諸島の手島に集い、
共に活動、交流ができたことにあります。ここ最近ではほぼ
皆無になってしまった、塩飽の中での交流が復活する一
つのきっかけになったと考えます。一見するととても簡単そ
うに思いますが、実際に会って話をする、この時間が大切
なんだと改めて感じました。

また、一緒に参加してくれたインドの友人から、手島につ
いて、素晴らしい環境だと言ってもらえたことも、地元民に
とっては気づかされる一言であったと思います。またとない
貴重な機会を与えてくださった代表の尾崎さんには感謝し
ております。



青空のもと皆で食べる昼食は格別



夕方の浜辺では幻想的な風景も

ふじわら まさただ
藤原 当正 氏

手島自治会長

今回の竹林伐採プロジェクトは島民が想像した以上の成
果をもたらし、皆喜んでいきます。特に高齢化が著しい手島
では労力的にこのような大がかりなプロジェクトを進めるこ
とは不可能であっただけに、このプロジェクトに参加してく
ださった京大生を始め多くの方々に感謝しています。



伐採した竹の一部は食器として生まれ変わった



汗を流した後に記念の一枚